

## 2021年度 相談支援事業 ぱれっと 事業報告

障害児相談支援と計画相談支援を統合し、2年目を迎えた。本人の心身の状況や置かれている環境、本人や家族のこれまでの暮らしに目を向けて丁寧な面談を心がけ、ニーズに合ったサービスが提供されるよう相談支援を行った。

相談支援専門員が積極的に意見を交換し合い、互いの支援方法を見直し、本人主体の相談支援とは何かという視点を見失うことがないように意識し合って相談支援に当たった。しかし一方で、支援機関がそれぞれの機能を発揮して連携できるようチームを支える支援を行うという点においては、充分でなかった。今後、機能連携の充実には、ケア会議を通して、支援機関が役割を明確にすることでよりよい支援体制を構築し、相談支援専門員は経験を重ねることでスキルの向上を図る必要がある。また、相談支援事業所情報交換会で相談支援の課題や疑問について意見交換を行った。地域の相談支援力を高めることにより、障害児者が安心して暮らせるまちづくりに貢献していきたい。

### 1 重点取り組み項目

#### (1) 体制づくりの強化

- ・適正な人員配置と機能強化による相談支援体制の整備

相談支援専門員3名に加え、非常勤職員1名を配置した。相談支援専門員1名が医療的ケア児等コーディネーター養成研修を受講し、相談支援事業所としての機能強化を図った。

#### (2) 障害者及び障害児の家族支援

- ・保護者の高齢化など家族環境の変化を踏まえた家族支援の推進

モニタリングを通して新しい暮らしの場について情報提供を行った。面談を通してグループホームや短期入所の利用を検討することができた。

- ・発達段階に応じた障害受容に寄り添った家族支援の充実

研修を通して発達段階を学び、保護者支援について理解を深めた。研修で学んだことを実践できるよう心掛けたが、今後も研鑽が必要である。

#### (3) 他機関との連携強化

- ・対象者を中心に据えたネットワークの構築

本人、家族を中心に据えたチーム作りを意識した相談支援を行った。コロナ禍であり感染が拡大している時期には会議をオンラインに切り替えて開催した。

児童発達支援が必要な障害児相談支援においては、支援機関である行政、保健センター、児童発達支援事業所の役割の明確化が課題であることが見えてきた。

(4) 相談支援専門員の質の向上及び人材育成

- ・相談支援スキルの向上を図るための研修機会の充実

発達について多角的に学びを深め、相談スキルにおいては対人援助職のノウハウや多職種との連携について学びを深める研修に参加した。学びを実践に活かしていくために、ケース検討会の重要性を感じることができた。

2 2021年度 相談支援実施件数

- ・特定相談支援 利用者数 133 人  
(計画作成 116 件、モニタリング 235 件)
- ・障害児相談支援 利用者数 150 人  
(計画作成 213 件、モニタリング 326 件)

3 会議への参加 (外部会議)

- ・志太榛原圏域自立支援協議会 相談支援部会
- ・藤枝市地域自立支援協議会 運営会議
- ・藤枝市地域自立支援協議会 相談支援部会
- ・藤枝市地域自立支援協議会 F生活ネット部会
- ・藤枝市地域自立支援協議会 こども支援部会
- ・藤枝市地域自立支援協議会 地域移行・定着支援部会

## 事業報告の付属明細書

2021 年度事業報告には事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の付属明細書は作成していない。

